

工藤篤子メールマガジン27号

2003. 04. 22

●藤井克之絵画展記念コンサート ●埴 葉子さんの詩歌



こんにちは。工藤篤子です。

大阪は随分暖かくなってきましたが、皆さん、いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

4月1日に日本に来てから、あっという間に3週間が経ってしまいました。

これまで、4つの賛美コンサートをもたせていただきましたが、どのコンサートも主が大きく祝福してくださいました。皆さんのお祈りに感謝いたします！

中でも最初の4月5日、6日の新潟巻町でのコンサートは忘れがたいコンサートとなりました。

11日の一宮でのレディースランチオンも大変祝されました。

19日の京都VIP in レディースでは、野田さんという若手ピアニストが伴奏してくださいましたが、彼のようなすごい賛美ピアニストが日本にいることを知り、驚きました。主から受けた大きな賜物、これからも、今のように主にへりくだりつつ仕えてゆくなら、主がさらに大きく用いてくださることを確信しています。

写真：藤井克之絵画展記念コンサート(新潟のレストランにて)

今回は、4月5、6日に開催された新潟でのコンサートの報告をさせていただきます。

墨彩画家の藤井克之さんが、ご自分の絵画展を記念して企画してくださいましたコンサートです。藤井さんは2001年の秋、ハーベスト・タイム・ミニストリーズが企画したイスラエル旅行で初めてお会いしました。

少し藤井さんのご紹介をさせていただくと、彼はその年の2月にもハーベスト・タイムのイエスラエルツアーに参加し、そこで信仰に導かれ、イスラエルの風景を墨彩画で描くようになりました。今回は、藤井さんの最近のイスラエルの絵と、越後の風景が会場に展示されましたが、イエス様とともに歩んで2年経った藤井さんの絵は、明るさを増していました。後で、藤井さんから、「今回の新作『嘆きの壁』は、工藤さんがあそこで歌った『黄金のエルサレム』を思い出しながら、新作『ヴィア・ドロローサ』の絵は、工藤さんのCD“Come To Me”入っている『ヴィア・ドロローサ』を聞きながら描きました。」とお伺いし、内心驚きました。というのは、藤井さんの20号の大きさからなる『嘆きの壁』を見たとき、実は、私はあの時あそこで歌った『黄金のエルサレム』を思出し、『ヴィア・ドロローサ』の新作を見たときには、あのヴィア・ドロローサのメロディーが流れてくるようだ、と感じたからです。

けれども、忘れがたいコンサートであった理由はこのことではありません。それは、主がたくさんの方々の心に語りかけてくださったからです。会場の60席は、数週間前に満席になりました。そして、いらしてくださいました方のほとんどはノン・クリスチャンでした。今回は、コンサート後のディナーの席でたくさんの方々とお話することができました。「主に捕らえられました。」という方、聖書を学びたいという方、洗礼を受けたいという方、求道したいという方・・・これは、一重に、藤井さんご夫妻とまわりのスタッフの準備と祈りによるものです。特に藤井夫人は、人の悩みを聞いてあげるという素晴らしい賜物を持った優しい人です。それを通して、何人かの友人が心を開き始め、その方たちが皆、

コンサートに来てくださったのです。このような地道な伝道がなされていた中に、ぽっこりと私が新潟へ行って協力させていただいたのです。これから藤井さんご夫妻は、引き続き、この方たちに伝道してゆきたいと意欲を新たにしています。皆さんもどうぞ新潟と藤井さんの働きのために祈ってください。今年の12月には、藤井さんの教会でクリスマスコンサートをさせていただくことになっています。主のみ業をまた見させていただけると、今からとても楽しみにしています。

詩歌

千葉流山の塙 葉子さんが、私の証しと賛美を聞いて、詩歌を作ってくださいました。この九行に、1時間あまりの私の証しと賛美がすべて表現されており、読ませていただいたとき、私ごとながら、涙が出ました。今日は、皆さんにその詩歌をご紹介します。

マドリードにて 主イエスの救い受け入れ給う コリント13章 胸に迫りて

そのままの姿受け入れ「われに来よ」とみ声かけたる 主のもとに生く

悲しみも苦しみもみな 恵みの露となりはうれし

罪なき御子が孤独も痛みもみな負いて 歩めりイエスの十字架の道

カルバリの丘に向かいて歩みゆく 主のドロローサ 我がためなりき

不安も未練もすべて負いゆき主のもとに 歩まば恵みの泉湧き来る

神の御子馬小屋に生まれて十字架にかかりて 血潮流し給えり

ドス黒き罪は我らをおおえども 主の十字架はなほ輝きぬ

ここにこそ主の慰めの泉湧く「Come To Me」今日も歩まむ

♪♪お祈りください♪♪

4月26日の琵琶湖ホールでのリサイタルのために。

チケットは、一ヶ月以上前にすでに完売してしまいました。これは伝道コンサートではありませんが、このコンサートにかかわってくださった方々へのよき伝道のチャンスでありますようにと祈っています。ピアニストは、ロンドン在住の素晴らしい歌曲伴奏のスペシャリストであるロビン・ボウマン氏です。ロビンには1985～1987年の3年間、フランスのサン・ジャン・ド・リューズでのモーリス・ラヴェル・サマー・アカデミーにてレッスンを受けました。以来、チャンスがあれば、ロビンに伴奏していただきたいと思っていたのが、なかなか実現しませんでした。彼は敬虔なクリスチャンです。そして、今年、大津の合唱団がこのコンサートを企画してくださったおかげで、ロビンとの共演が実現しました。一般のコンサートで、クリスチャンの伴奏者にめぐり合えるのはまれなことです。ロビンと私は、このコンサートが主のためでありますようにと祈りつつ準備を進めています。

